

平成 25 年度「船越原遺跡」発掘調査 現地説明会

主催：沖縄県立埋蔵文化財センター

共催：渡嘉敷村教育委員会

船越原遺跡は、渡嘉敷村の南端部、阿波連集落より南に約 3km、地元で浦海岸と言われるところにある縄文時代から弥生並行時代（約 6,000～2,000 年前）の遺跡です。

なぜ遺跡だと分かったの？

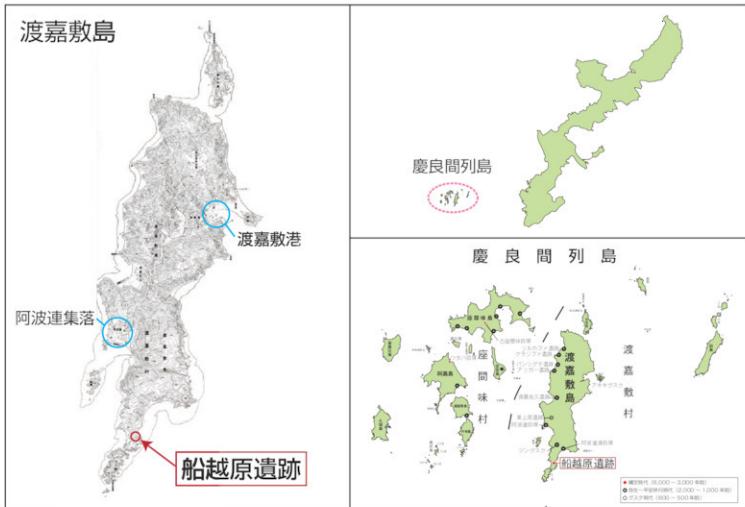
今から 38 年前（1975 年）の砂取り工事のときに、多くの土器が散らばっていることが発見されました。その土器は、沖縄で最も古い土器の一つである爪形文土器（約 6,000 年前）や、弥生並行時代（約 2,000 年前）のものがありました。土器が確認できた場所は 4 地点あり、爪形文土器は 2 地点で見つかっています。

どんな遺跡なの？

この一帯には、沖縄本島の遺跡で出土する石斧などの材料となる石が大量に見られることから、これらの石を取るための人々がいたもしくは、本島からやってきたのではないかと考えられていました。

なぜ今回調査を行ったの？

当遺跡は砂丘にあるため、大雨や風などで崩壊が進んで、その保存が不安視されていました。そこで、遺跡の保存策を検討するために、平成 22・23 年度に周辺の地形測量を行い、平成 24 年度より遺跡の範囲や性格を調べるために発掘調査を開始しました。



平成 24 年度の調査成果は？

爪形文土器が散布しているⅡ地点の露頭地区周辺の5か所で発掘調査を行いました。露頭地区では、大きく5つの土層が見られ、Ⅱ層とした浅黄色シルト砂層から爪形文土器が出土しました。ここより海側へ約10m東にある標高約6mの地点では、約4,000～5,000年前と考えられるビーチロックが確認できました。このことから、爪形文期（約6,000年前）の時代には現在より海面が6mも高かったことが考えられます。

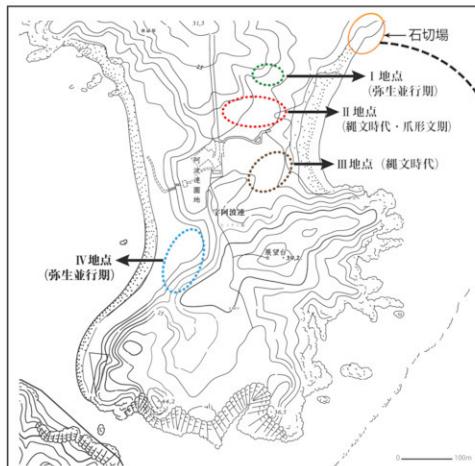
今年度（平成 25 年度）の調査成果は？

遺跡の西側の広がりを確認するために、Ⅱ地点の露頭地区西側で6か所の調査区を設定しました。6018A調査区では、緑色岩や砂岩などの石器の材料となりうる石が集中して見つかっております。おそらく、爪形文期のものと考えられ、石を集めたり何らかの活動をしていたのかもしれません。このⅡ地点は、東岸より約150m西側の場所に、直徑約30mの範囲であったものと考えられます。

なお、過去に土器が採集されたとされるⅢ・Ⅳ地点でも試掘調査を数地点行いましたが、今のところ明確な遺構や遺物包含層はありませんでした。

今後の調査の予定は？

来年度の調査では、Ⅱ地点における爪形文期のより具体的な生活跡の確認や、その北側にあるⅠ地点の調査を行い、遺跡の保存に努めていきたいと思っております。



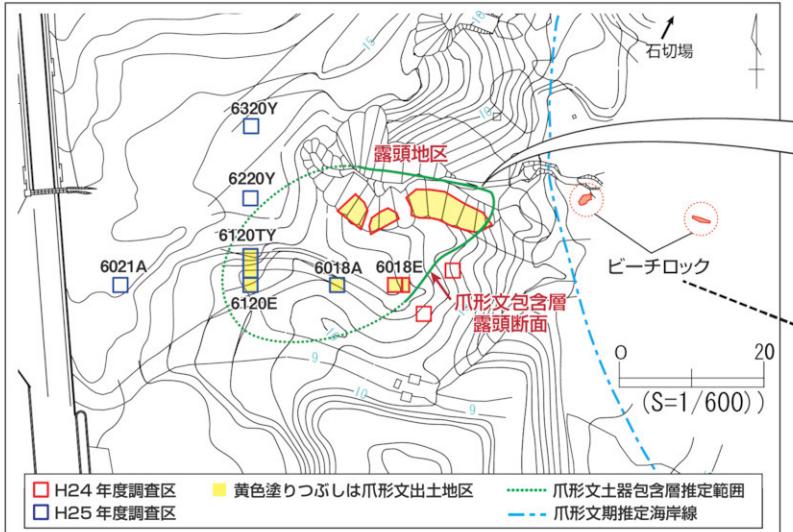
遺物散布がみられる地点（I地点～IV地点）



船越原遺跡（遠景）南より



船越原遺跡 北方石切場



II地点調査位置図（拡大図）



船越原遺跡 Ⅱ地点露頭地区（北より）



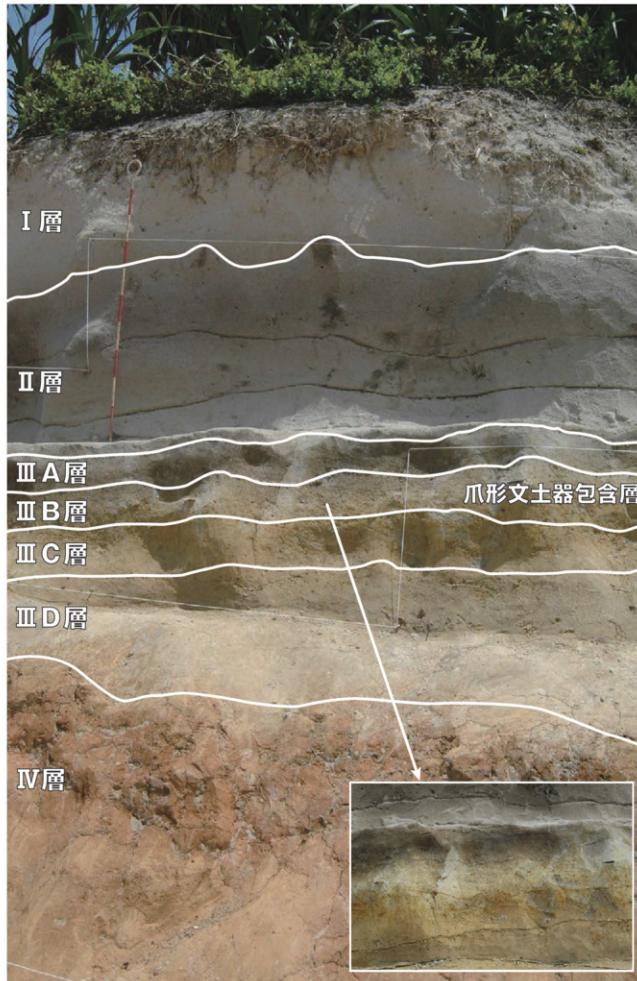
船越原遺跡 Ⅱ地点露頭地区断面



船越原遺跡 Ⅱ地点南側ビーチロック露頭



船越原遺跡 Ⅱ地点ⅢB層遺物出土状況



I層：現砂丘層 II層：旧地表・砂丘層

III層：浅黄～淡黄シルト砂層（IIIB層：爪形文土器包含層） IV層：明赤褐色砂層（砂岩の風化か？）

船越原遺跡 II地点露頭地区層序